

澄川森林で集材したニセアカシヤ材を薪用にチェーンソーで玉切りをしていました。足元の鋸クズに大き目の黒い虫が足早に這っているのに気づきました。オサムシの仲間であることは分かりましたが、この仲間たちは細かく分類されていて、一目で同定するのは専門家でなければ無理なのです。オサムシ科として括られているゴミムシも含めてヘッピームシとして虫捕り少年時代から認識していますが、作業用の丈夫な免震手袋をはめていましたので、取り敢えず捕まえて、屁をひりまして暴れまくるのを脚を掴んでデジカメで撮影、後でゆっくり調べることにしました。撮影画像の記録は2017年8月26日13時22分でした。



帰宅して図鑑「札幌の昆虫」でチェックしましてイシカリクロナガオサムシと判定いたしました。よく似ている紛らわしいオサムシだらけなのですが、ネットの画像なども参考し比較しての判断であります。出現は5～8月。大きさは26mm前後とのこと。主には夜行性で食性は昆虫やミミズ、カタツムリなどです。こいつもシデムシたちと同じような森の掃除屋なのであります。ネットでのきれいな画像を参考までに掲載させていただきます。

和名の頭にイシカリ(石狩)と地域名がつけられているので、北海道しかも石狩地方限定の種のように見えますが、亜種あつかいされている方もおられます。食性からしてもっと広く分布できる筈と思うのであります。

オサムシの仲間には金属光沢で色彩変化があるオオルリオサムシやアイヌキンオサムシもいるのですが、これまでに会っていません。トラップを仕掛けたりすれば出会えるかもしれませんが、主義として意図的な出会いづくりはこれまでにしておりません。あくまでも自然のままの出会いを大切にしておりますし、これからもそうするつもりであります。



ニセアカシヤ材は素性がよくありません。年輪が偏ったものが殆どです。幹が曲がりや捻じれていますので、30cm余りの長さに切り刻むのでどうしてもよいのですが、切る角度を斧で割る場合に台に立てられる方向に切ります。いつも思うことですが、斧を使う人、薪割機械を使う人、薪を積む人それぞれが自発的に己の能力をわきまえての仕事ぶりは、見ていてまっこと気持ちよいのであります。